

保険料率が変わります！

平成23年度予算が決まりました

平成23年2月15日開催の第71回ワールド健康保険組合組合会において、平成23年度収入支出予算が可決されました。
 今年度予算で健康保険料率が5.2%から**8.4%**、介護保険料率が1.18%から**1.28%**に変更されました。
 震災で大変な状況での保険料引き上げになりますが、何卒ご理解のほどよろしくお願いします。

◆保険料率変更について

ここ数年来、高齢者医療費に対する国への納付金の著しい負担増や、保険給付費も引き続き増加しています。これまで、別途積立金繰入で収支バランスをとってききましたが、別途積立金も底をつく状況になりました。新しい健康保険料率は8.4%になります。

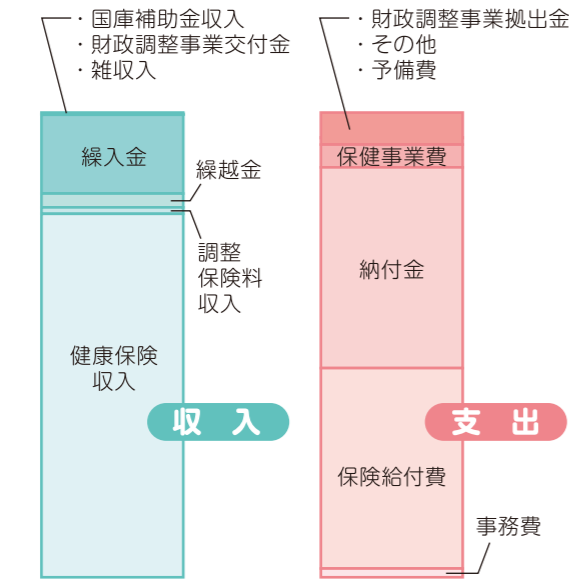
参考：協会けんぽ/平成23年度保険料率 **9.5%**
 健保組合/平成22年度実質保険料率 **8.2%**



*平成23年4月給与引落分より
 <任継の方は平成23年4月分より>

平成23年度収入支出予算

【一般勘定】



| 収入 | | 支出 | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 健康保険収入 | 4,356,404 | 事務費 | 105,053 |
| 調整保険料収入 | 77,554 | 保険給付費 | 2,402,214 |
| 繰越金 | 165,758 | 納付金 | 2,406,174 |
| 繰入金 | 943,909 | 保健事業費 | 273,371 |
| 国庫補助金収入 | 2,002 | 財政調整事業拠出金 | 77,554 |
| 財政調整事業交付金 | 10,000 | その他 | 7,926 |
| 雑収入 | 14,361 | 予備費 | 297,696 |
| 計 | 5,569,988 | 計 | 5,569,988 |

支出で保険給付費と納付金がほぼ同額になっていますね。予備費を除くとこの2科目で全予算の約91%。事業の見直しはもちろんのこと、この支出を抑制する方法を考えないと。



【介護勘定】

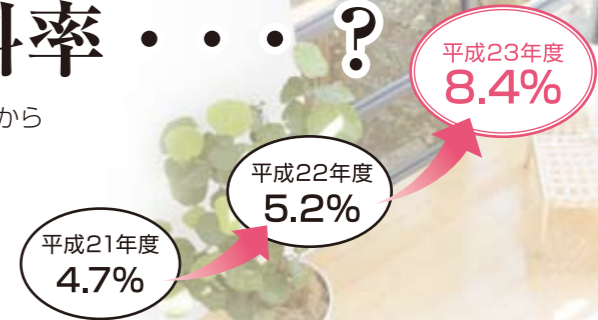
| 収入 | | 支出 | |
|--------|---------|-------|---------|
| 介護保険収入 | 223,014 | 介護納付金 | 221,250 |
| 繰越金 | 2,380 | 還付金 | 500 |
| 雑収入 | 1 | 積立金 | 3,645 |
| 計 | 225,395 | 計 | 225,395 |

平成23年度の納付金は、平成22年度に比べ27,286千円増加となります。<14%増>介護保険料率を1.18%から1.28%に変更し、平成23年3月分から実施します。<任意継続被保険者については、平成23年4月分保険料から実施します。>



何故、上がる保険料率・・・？

平成22年度は、4.7%から5.2%。平成23年度は5.2%から8.4%へと大幅な保険料率アップになっています。「去年も上がったのに・・・？」「今年も上がるの・・・？」何故、保険料率が上がるのか、その要因と健保財政の健全化について考えていきます。



3年間の保険料を比べてみます

| 標準報酬月額 240千円で 算出 ※賞与分含まず | <月額保険料> | | | |
|-----------------------------------|---------|---------|----------------|--|
| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | |
| 被保険者負担 | 5,640円 | 6,240円 | 10,080円 | |
| 事業所(会社)負担 | 5,640円 | 6,240円 | 10,080円 | |
| 合計 | 11,280円 | 12,480円 | 20,160円 | |

平成23年度の被保険者の年間保険料は、平成21年度と比べて約1.7倍になっています。

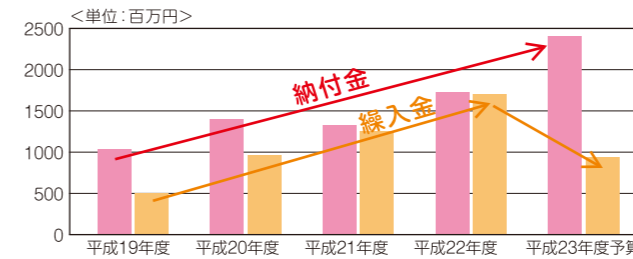
| 被保険者平均で 算出 | <年間保険料> | | | |
|---------------|---------|---------|----------------|-----------------|
| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | |
| | 被保険者負担 | 77,913円 | 84,943円 | 131,347円 |
| 1人当り積立金繰入額 | 38,448円 | 51,360円 | 27,573円 | |

今年度も積立金の繰入で保険料負担が軽減されています。

← 保険料負担軽減額
 これまで、繰入金により被保険者の保険料負担を軽減してきました。

◆保険料率アップの要因

要因1 納付金の増加と繰入金の減少



納付金は平成22年度の17億3,000万円から、平成23年度は24億600万円と、前年から約7億円増加しました。一方、繰入金は約8億円減少しています。

尚、繰入金は今年度が最終の見込みです。この不足分を被保険者と事業所からの保険料で補うことが必要になります。

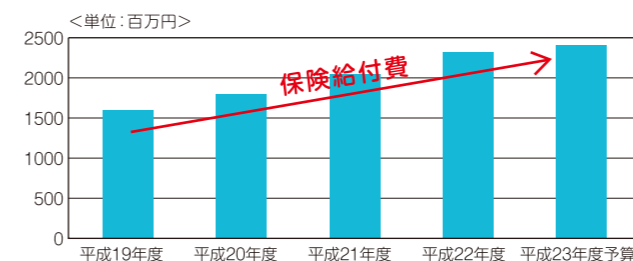


何故、40%近くも納付金が増えるのですか？

納付金増加の主な要因は、前期高齢者納付金(12億円)の増加にあります。これは、当組合の65歳以上の高齢者の方の医療費を基に算出されます。平成23年度の納付金は平成21年度の医療費実績が、前年度に比べ1.7倍に増加したことにより、約6億円増加しました。



要因2 保険給付費の増加 医療費は年々増加



保険給付費は、平成19年度の15億9,300万円に対し、平成23年度は24億200万円と、ここ5年間で1.5倍になっています。加入者(社員と家族)一人当たりの金額は、年間85,000円から115,000円と1.35倍に増加しています。

保険給付費には、医療費のほか、傷病手当金や出産育児一時金、出産手当金なども含まれており、傷病手当金が約2倍、出産関係費が約2.5倍と大きく増加しています。出産件数が増加することは嬉しいことですが、このところ妊娠・出産時の異常に対する医療費の増加が気になるところです。



被保険者ひとりひとりの医療への意識、健保の取り組みによって健保財政を改善できます。